15－c　若年妊娠分娩について

慶應義塾大学医学部産婦人科学教室
河　上　征　治

(1) 十代の性行動と妊娠の実態

昭和56年，総理府青少年対策本部がまとめた「青少年の性行動」調査では20才までの男子の３人に１人，女子では４人に１人が性交経験があり，この実態は７年前の同調査より急増で女子では2.5倍となっている。

一方昭和54年，第５回国際小児思春期婦人科シンポジュームで，日産婦学会，日母が中心となり全国的に調査した10代妊娠857例について石浜氏（小山市民病院長）が詳細な解析を発表している。その中で人工中絶は69％を示している。

また厚生省統計情報部がまとめた昭和54年度の優性統計では人工中絶は年々減少しているが10代少女の中絶だけが激増していると報告。

これら増加する十代の妊娠が中絶で control されている現状で，若年の妊娠，分娩に対する管理方策とこの年代への避妊指導の必要性も痛感させられる事態となった。

(2) 十代妊婦の問題点

1980年10月に著者もメンバーの一人として出席した「Working Group on Adolescent Fertility Management, WHO Manila office」の Final Report で，①西太平洋地区でも10代の妊娠は年々増加している。②妊娠経過中の定期検診の不徹底，③妊娠中毒症の合併率大，④未熟児出生，流早産率が成人妊婦より大，⑤産褥管理，哺育の困難性，⑥避妊知識の未熟等があげられている。

そこで，今回私達は10代の妊婦において，もし成人婦人と同様に妊産婦管理が可能であった場合にも産科学的に問題点があるか否かについて検討してみた。

昭和50年～55年に当大学病院産科，小児科で妊娠，分娩，産褥，新生児，児（産後一年間）を一般妊産婦同様，完全に follow up　可能だった６例（17才１例，18才４例，19才１例，内４例既婚，２例，婚約中）について

①妊娠経過，合併症の問題，②分娩様式，分娩時間，分娩時出血量，③児の問題，④産褥経過，泌乳状態，産褥初発排卵，について20代以上の妊婦と検討した。

その結果

① 甲状腺機能亢進症を非妊娠時から合併していた１例に妊娠中毒症を認めたが，他の５例は全く合併症なし。

② 全例経腟分娩で，上記１例早産（36週），他の５例は満期産（39週～41週），分娩時間は第１～３期合計平均（11時間７分），産科出血量（180～320 g）で，成人妊婦（帝切率11％，分娩時間12.6時間，出血量260 g）に勝るとも劣らない。特に35才以上妊婦より明らかに良好。

③ 児は36週分娩１例（2,300 g），他の５例は，平均3,260 g，Apgar Score，１分後８～10点，５分後全例10点，１年後検診，全例特変なし。

④ 産褥経過全例特変なく，泌乳状態良好，産褥初発卵は一年後検診時全例ＢＢＴ２相性。

以上非常に少数の対象だが，一般妊婦と同様の管理下においては10代（17～19才）妊婦は高年妊産婦より問題点は少ないと考えるが，管理不充分な10代妊婦の問題点を今後の課題として調査をすすめたい。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

(1)十代の性行動と妊娠の実態

昭和 56 年,総理府青少年対策本部がまとめた「青少年の性行動」調査では 20 才までの男子の 3 人に 1 人,女子では 4 人に 1 人が性交経験があり,この実態は 7 年前の同調査より急増で女子では 2.5 倍となっている。

一方昭和 54 年,第 5 回国際小児思春期婦人科シンポジュームで,日産婦学会,日母が中心となり全国的に調査した10代妊娠857例について石浜氏(小山市民病院長)が詳細な解析を発表している。その中で人工中絶は 69%を示している。

また厚生省統計情報部がまとめた昭和 54 年度の優性統計では人工中絶は年々減少しているが 10 代少女の中絶だけが激増していると報告。これら増加する十代の妊娠が中絶で control されている現状で,若年の妊娠,分娩に対する管理方策とこの年代への避妊指導の必要性も痛感させられる事態となった。